

今回のトレーニング犬



セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: **誘惑物(静止状態)**

誘惑物が遠くにある状態で、ドッグに「集中するように」という指示を出します。慣れた場所でStep1~4を繰り返してトレーニングし、できるようになったら場所を変えて実施しましょう。

「誘惑物」としてトレーニング撮影に協力してくれました。

目標 さまざまな誘惑物(静止状態)があっても
トレーナー(自分)の指示に従うことができる。

やってみよう!
Let's try!!

第1段階

誘惑物
1~2個

Step1
アイコンタクト



ドッグを脚側に座らせ、アイコンタクトを取ってから歩き出します。

Step2
トレーナー(自分)に集中させる



トレーナーは、進行方向に誘惑物を確認したら、誘惑物がまだ遠い段階からドッグとアイコンタクトを取り、ドッグを自分に集中させます。

Step3
誘惑物の手前で止まる



誘惑物に近づいたら直前で止まります。

Step4
ほめる



ドッグが誘惑物に気を取られず、トレーナーの方に集中していたらほめましょう!
「Good!!」

第2段階

誘惑物
4個以上

Step1
アイコンタクト



ドッグを脚側に座らせ、アイコンタクトを取ってから歩き出します。

Step2
飼い主(自分)に集中させる



トレーナーは、歩きながら進行方向に誘惑物を確認したら、誘惑物がまだ遠い段階からドッグとアイコンタクトを取り、ドッグを自分に集中させます。

Step3
誘惑物の前を通過



誘惑物の前を通過します。ドッグが誘惑物を見ないように、トレーナーは「私の方を見なさい」という意志を強く持ち、ドッグとアイコンタクトを取ったまま誘惑物の前を通過します。

Step4
ほめる



ドッグが誘惑物に気を取られずに通過できたらほめましょう!
「Good!!」

※この時、リードを引く張らないように気を付けましょう。

ポイント

一度できないうらいで焦らず、ドッグが集中しなかったら起点に戻る、できなかつたら前の段階に戻る。誘惑物の数を減らすなど、繰り返し挑戦しましょう!

こんなときどうする?

NG- ドッグが誘惑物を見ている
アドバイス- ドッグとアイコンタクトをしっかりと取り、トレーナーに集中させましょう。

NG- トレーナーがリードを強く引っ張って指示する
アドバイス- ドッグが、誘惑物の方に向かって動き出す前にリードを引き、誘惑物から離れるように指示します。そして、改めてトレーナーに集中させてから誘惑物に近づきます。このとき、トレーナーは「リラックス」すること。トレーナーの緊張がドッグに伝わると誘惑物の方に引き寄せられてしまうので注意!

☆ドッグセラピー事業部では☆

ドッグセラピー事業部のセラピードッグとセラピストは、毎週1回、笠木恵子先生(My Dog Training School 主宰・家庭犬訓練士)のトレーニングを受けています。



指導を受けています
笠木恵子先生(左)
My Dog Training School 主宰
家庭犬訓練士

(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

http://www.therapydog.jp



燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol. 17 / 冬号
2015年

Contents

- 理事長ごあいさつ
- 活動報告
- 第7回ドッグセラピー交流会
- コラム:ドッグセラピーの現場から
- お知らせ:おかやまオレンジカフェ
- トレーニング:誘惑物(静止状態)



【理事長ごあいさつ】

認知症高齢者の「会話能力」に着目した研究開始 岡山市委託事業「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」に協力

私たちは、ドッグセラピーの介護保険制度収載を目指し、認知症高齢者に対するドッグセラピーの効果の指標作成に取り組んでいます。2014年度は「記憶力」、および犬との関係づくりができた際の「目の光り方」に着目しました。

認知症高齢者に、ドッグセラピーを実施して回数を重ねると、どのように会話能力が向上していくのかをステージ分類します。実は、認知症高齢者の会話能力に着目した研究は世界に例がありません。

また、2014年11月より新たに「言語」に着目した調査研究を開始しました。言葉による意思疎通が困難だった認

知症高齢者に、ドッグセラピーを実施して回数を重ねると、どのように会話能力が向上していくのかをステージ分類します。加えて、義風会が岡山市より委託を受けて運営する「おかやまオレンジカフェ」でもドッグセラピーを実施することになりました。(※詳しくは3ページに記載)



理事長 生長 豊健
医学博士
日本内科学会認定内科医
岡山県認知症サポート医
医療福祉法人雄風会理事長
社会福祉法人義風会理事長

【活動報告】

ドッグセラピーによる「意欲の向上」に対する効果を発表

2014年11月16日(日)、山梨県上野原市の帝京科学大学上野原キャンパスで開かれた「ヒトと動物の関係学会シンポジウム」に生長豊健理事長が招かれ、「認知症高齢者に対するドッグセラピーの効果」と題した基調講演を行いました。また、ドッグセラピー事業部は2014年11月20日(木)に開かれた「第22回岡山県介護老人保健施設大会」に参加。セラピストの三宅慶子が「ドッグセラピーによる認知症高齢者の意欲向上に対する効果~セラピードッグが開く心の扉~」と題した症例実績を発表しました。ある認知症高齢者にドッグセラピーを実施した結果、記憶の保持が可能となった上、意欲の指標(バイタリティインデックス)とMMSE(認知症機能検査)の点数がともに向上し、自発的な行動や自発語、笑顔が見られるようになり、対話が可能になったことを報告。「今後は介護量軽減への影響を研究したい」と次の研究課題を発表すると会場に大きな拍手が湧き上がりました。



「第22回岡山県介護老人保健施設大会」

平成26年10月12日(日)13:30~16:10
会場:老人保健施設「高松アクティブホーム」

ドッグセラピー事業部は上記日程で「第7回ドッグセラピー交流会」を開催しました。大型台風接近のため、参加できなくなった方もいらっしゃいましたが、県外からの参加者やボランティア経験者、ドッグセラピー志望者を含む8名が参加してくださいました(参加費無料)。

まず、ドッグセラピー事業部のセラピードッグと一日の過ごし方をご紹介します。ドッグセラピー事業部セラピストおよび参加者の自己紹介に続いて、私たちのドッグセラピーについてご説明しました。また、犬種による適性(毛が抜けないトイプードルがベッドでのセラピーに適していることなど)、継続した社会化トレーニングの重要性、トレーナーの根気について、トレーニングのコツなど実践を交えてご説明しました。

後半は、初めて参加された方と経験者の2班にわかれて、ドッグのトレーニング(基礎/応用)を体験していただきました。体験を終えた参加者からは「ドッグセラピーについていろいろ知ることができました。また参加したい」「カーミングシグナルを見て犬の感情がわかるようになりたいと思います」「ドッグセラピーを実践したいのでセラピードッグの育て方を学んでいきたい」などの感想をいただきました。参加者の皆様には、終始アットホームな雰囲気の中で、ドッグセラピーへの理解や関心を深めていただくことができました。



プロジェクターやDVDを使い、私たちのドッグセラピーや症例についてご紹介しました。

基礎コース シャイン

アイコンタクト、おすわり、ふせなどの基本トレーニングを体験していただきました。



応用コース メロン

基礎の復習のあと、リードを持った状態でのおすわり、ふせを指示。さらに、ふせ・待ての指示を出した状態でメロンの身体をなでる(その間、メロンが動かないようにする)など、ワンランク上のトレーニングを体験していただきました。



車椅子歩行訓練 シャイン

シャインとアイコンタクトを取りながら車椅子を使っての散歩(リハビリ)を体験。



歩行器歩行訓練 メロン

メロンとアイコンタクトを取りながら、歩行補助杖(ケイン4点式)などを使った歩行訓練を体験。



A.A.T.(動物介在療法)となるための4つの条件

私たちは、セラピードッグによる動物介在療法「Animal Assisted Therapy=A.A.T.」を、基本的に「個別単位」で実施します(※)。1人の利用者様に対して、セラピードッグ1頭とセラピスト1人が1組となり、セラピーを行います。理由は、ひとり一人の課題に沿った目標を設定し、モニタリングシートの作成および、セラピー内容と利用者様の変化の分析・評価を実施するため。また、みんなで楽しむ集団セラピーとは異なり、個別の場合、ドッグと信頼関係を築ける上、「この子(ドッグ)を守りたい」「使命感」、「この子の役に立ちたい」「役割感」、「この子に好かれたい」「この子と楽しい時間を持ちたい」「欲求」などのポジティブな感情が大きくなると心身に影響を及ぼす効果が表れると考えるからです。

私たちは2002年からドッグセラピーを実施し、多くの実績と培った経験をもとに、ドッグセラピーのA.A.T.が成立するための条件4項目を設けています。

1 継続的かつ定期的な実施

- 週1回・週5回・月1回など、定期的な実施。(利用者様ごとに異なります)
- 1回のセラピー時間は約30分。

2 目的の決定

「介護ケアプラン」や「フェイスシート(認知機能・生活歴・病歴・職歴などがわかる資料)」を考慮しながら、また、PT(理学療法士)やOT(作業療法士)と相談し、利用者様ひとり一人に合った目的を設定します。

3 実施方法の決定

目的に応じてセラピストとドッグを選定し、具体的なプランを作成します。

4 一定期間での評価

セラピストは、1か月単位で利用者様の各指標を評価し、結果に応じてプランの継続または変更を判断します。数値の経過をグラフにして長期的な変化も分析・評価します。

※「おかやまオレンジカフェ」などでは集団セラピーを実施しています。

オレンジカフェ ～ドッグセラピーふあみーゆ～ をご利用ください(申込み不要)

2014年11月、岡山市内2カ所に「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」が開設されました。「認知症カフェ」は、厚生労働省の「認知症施策5カ年計画(オレンジプラン)」に普及が掲げられ、2014年度から介護保険の地域支援事業に位置づけられました。岡山市は「認知症患者や家族が地域で安心して暮らせる具体策の一つ」として民間に委託して事業展開しています。

ドッグセラピー事業部は、社会福祉法人義風会の特別養護老人ホーム「いきがいライフたかまつ」で開かれるおかやまオレンジカフェ事業に協力し、月1回のペースでドッグセラピー(集団)を実施します。喫茶を運営する高松地域のボランティア団体「ひまわりの会」の代表の方は、「最初は犬が嫌いと言われていた認知症のお年寄りが『かわいいなあ』と言われてたり、笑顔になられたりするの、かわいい動物には人を明るくする力があるんでしょね」と感心されていました。

いきがいライフたかまつ 「オレンジカフェ ～ドッグセラピーふあみーゆ～」

認知症患者や家族、地域の住民も含めて誰でも自由に参加できます。看護師・介護福祉士が常駐して、認知症に対する相談にも応じています。

開催日時

毎月2回 水曜日 13時～15時
※ドッグセラピーは第2水曜日のみ

喫茶協力ボランティア団体

「ひまわりの会」(高松地域)

場所・問合せ先

いきがいライフたかまつ 1階・地域交流ホール
(岡山市北区立田586-1 / tel.086-287-8880)

